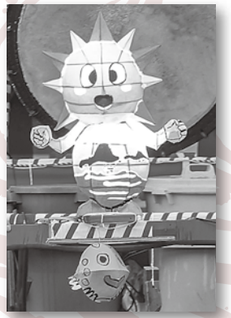
6年ぶりに復活 深浦ねぶた


ゆうひくんねぶた

コロナ禍で途絶えていた深浦ねぶたが6年ぶりに復活し、8月13日から15日の3日間、町中心部をねぶた囃子に合わせて練り歩きました。

深浦ねぶたは、かつて各地区の子供会を中心に制作・運行されていましたが、少子化などの影響で実施する地区が減少。2019年の運行を最後に休止していました。

今回、町内から有志が集まり「深浦ねぶた祭実行委員会」が組織され、深浦町・岩崎村合併20周年記念事業の一つとして復活を果たしました。実行委員会のメンバーは今年2月から基礎作りに着手。骨組みや紙貼り、彩色など、仕事終わりにねぶた小屋に集まり、ねぶたの制作をしてきました。6月から7月にかけては、町内の小中学生を対象にした紙貼り体験や小学生以上を対象にした深浦ネブタ囃子・ねぶた踊り講習会を開催し、深浦ねぶた復活に向けて機運を高めてきました。

13日から15日のねぶた運行には地元の小中学生や帰省していた人たちなど、多くの人が集まり、6年ぶりの深浦ねぶたを楽しみました。運行コースの各所で深浦ねぶた踊りとネブタ囃子も披露され、近所の住民などの見物客が集まり、太鼓や笛の音色とねぶた踊りに喜んでいました。

ねぶた運行に参加した深浦小学校の子どもたちは、「ねぶたが意外と重くて引くのが大変だった」（竹内雄飛くん：6年生）「引っ張ってみると意外と重くて、五所川原のねぶたを引っ張ってる人は本当にすごいなと思った」（村上芽郁さん：6年生）「みんなで力を合わせないと進んでいかない感じが良かった」（田浦星虎くん：6年生）と初めてのねぶた運行の感想を語りました。

運行前に披露されたねぶた踊り

6月に行われた紙貼り体験

実行委員会の作業の様子

アドベンチャーキャンプ2025（8月7日～8日）

子どもたちが親元を離れ、自然と触れ合いながら普段はできない体験をするアドベンチャーキャンプが8月7日、8日の2日間、ふれあいと創造の館で開催され、町内の小学校3校の4～6年生24人が参加しました。

本来は白神十二湖エコ・ミュージアムで開催される予定でしたが、悪天候が見込まれたため、ふれあいと創造の館での開催となりました。

子どもたちは自己紹介をした後、班ごとに分かれて活動を開始。テント設営や火起こし体験、夕食・朝食づくりなど、各体験の冒頭に説明を受けた後は「大人に頼らない・できるだけ自分たちでやる」を合言葉に自分たちで考えて取り組んでいました。

火起こし体験では、江戸時代に神社の儀式で使われていたとされる“まいぎり式”の火起こし器を使い、班ごとに火を起こそうと一生懸命汗を流していました。夕食づくりでは、竹を使った飯ごうでお米を炊くことに挑戦。自分たちで竹を切り、ふたをくり抜いて作成した飯ごうでご飯を炊きました。

子どもたちは2日間にわたって、協力しながらさまざまな体験・活動を行いました。別れの集いでは、「火をつけるとき、みんなと協力できてよかった」「初めてのアドベンチャーキャンプで緊張したけど、ちゃんとみんなと協力して、大人の力を借りずにできてよかった。来年も来たい」と2日間の感想を語りました。

◀仲間と協力して火起こし体験

▶竹で飯ごうづくり

◀シーグラスや貝殻を使ったフォトフレームづくり

▶班対抗で行われたモルック大会

みんなで記念撮影